



日本造血細胞移植学会

40年の歩み



本学会の40年の歩み

第40回日本造血細胞移植学会総会会長

豊嶋 崇徳

日本造血細胞移植学会の起源は1978年の第1回骨髄移植臨床懇話会であり、名古屋赤十字病院 芳賀 圭吾先生、金沢大学第3内科 服部 絢一先生、大阪府立成人病センター 千田 信行先生、名古屋大学第1内科 山田 一正先生が世話人でした。その後、第3回から日本骨髄移植研究会と名称変更され、第10回(辻 公美会長)以降からは2日間の会期となり、第13回(小寺 良尚会長)から初めて看護師・コメディカルのセッションが設けられ、第14回(宮崎 保会長)では日本骨髄バンクが発足しました。第19回から日本造血細胞移植学会学術集会(原田 実根会長)と正式に学会へと発展を遂げました。

演題数と参加者数も増え、第1回には23演題でしたが、第13回に100演題、第19回に300演題、第26回に500演題を超え、今回第40回は669演題にまで増えました。

学会組織は2000年から理事会制度が敷かれ、2006年2月に有限責任中間法人、2009年2月には一般社団法人となりました。本学会は全会員を代表する社員(評議員)を基盤に理事、理事長が執行機関としての機能を果たすことで成り立つ現代的組織であり、国内外の関連学会とも連携し、益々盛んに活動を続けています。

本学会では、造血細胞移植医療のさらなる発展と進化を目指し、多くの患者さんに希望を与え、質の高い治療をもたらすことができるよう、世代を超えて引き続き努力していく所存です。(本パネルは第34回総会 園田精昭会長がその時点までの歩みを編集され、今回それを引き継ぎ40年の歩みとして再編集したものです。)



黎明期

第1回~18回

「日本骨髄移植臨床懇話会」として発足し、「日本骨髄移植研究会」に

第1回 日本骨髄移植臨床懇話会

1978年(S53) 12月
名古屋
世話人: 芳賀 圭五/服部 絢一/
千田 信行/山田 一正
演題数: 23

第2回

1979年(S54) 12月
大阪
世話人: 千田 信行/芳賀 圭五/
服部 絢一/山田 一正
演題数: 15

第3回 日本骨髄移植研究会

1980年(S55) 1月
金沢
世話人: 服部 絢一/千田 信行/
山田 一正/芳賀 圭五
演題数: 14

第4回

1981年(S56) 8月
名古屋
世話人: 山田 一正/千田 信行/
芳賀 圭五/服部 絢一
演題数: 27

第5回

1982年(S57) 12月
東京
世話人: 天木 一太/
芳賀 圭五/千田 信行/
服部 絢一/山田 一正
演題数: 29

第6回

1983年(S58) 11月
大阪
会長: 永井 清保
演題数: 39

造血細胞移植に関する主要事項

骨髄移植

1980年代後半
自己末梢血幹細胞移植の
臨床応用開始

1988年
フランスで
Fanconi貧血の
5歳男児に世界
初の臍帯血移植
実施

末梢血幹細胞移植

1982年
中畑龍俊(第23回
日本造血細胞移植
学会会長)が臍
帯血中に造血幹
細胞を発見

1991年
骨髄移植推進
財団設立許可、
日本骨髄
バンク発足

臍帯血移植



第9回

1986年(S61) 12月
大阪
会長: 正岡 徹
演題数: 49

第10回

1987年(S62) 2月
東京
会長: 辻 公美
演題数: 63



第17回



1994年(H6) 12月
大阪
会長: 柴田 弘俊
演題数: 182

第8回

1985年(S60) 8月
名古屋
会長: 吉川 敏
演題数: 49

第11回

1988年(S63) 12月
金沢
会長: 松田 保
演題数: 58

第7回

1984年(S59) 11月
新潟
会長: 柴田 昭
演題数: 39

第12回

1989年(H1) 12月
東京
会長: 高久 史麿
演題数: 86



●海外の研究者(JM Goldman先生)を初めて講演に招待。●特別講演では、服部絢一先生(金沢大学名誉教授)が特別講演。●正岡徹先生(現・骨髄移植推進財団理事長)の司会によるシンポジウム「同種骨髄移植の長期生存阻害要因への対策」が開催された。



第13回

1991年(H3) 1月
名古屋
会長: 小寺 良尚
演題数: 116

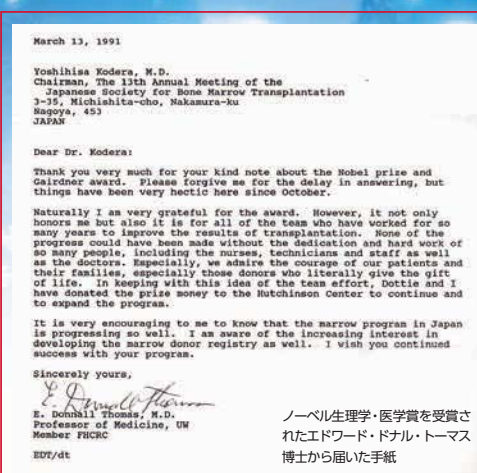


中央に招待講演者のJM Goldman先生。右々しい柴田会長、正岡徹先生、森山美昭先生のお顔が見えます。皆さん、髪の毛が真黒です

●抄録集に日本語と英語を併記したのは新しい試みで、海外の主な移植センターに送付。
●看護師・コメディカルのセッションを初めて設けた。
●日本骨髄移植研究会の規約と役員が決まり、恒常的な事務局が設けられた。
●当時の理事には、正岡徹、宮崎保、柴田昭、高久史麿、辻公美、仁保喜之、高藤英彦、浅野茂隆、小寺良尚の9名の方が就任。
●第2回 APBMT学術総会(会長・正岡徹)とジョイントして開催。
●1990年に骨髄移植を開發した功績でノーベル生理学・医学賞を受賞されたエドワード・ドナルド・トーマス博士に、日本骨髄移植研究会を代表して御祝いの手紙を送付し、返事(1991年3月13日付)をいただく。

1992年
ドナー登録受付
開始、コーディネ
ット開始

1993年
公的骨髄バンク
を介する骨髄移植
第1例実施



ノーベル生理学・医学賞を受賞されたエドワード・ドナルド・トーマス博士から届いた手紙

第18回

1995年(H7)
東京
会長: 浅野 茂隆
演題数: 243

第15回

1992年(H4)
福岡
会長: 仁保 喜之
演題数: 156

●公的骨髄バンクの初めての試み。●尾先生は研究、造血幹細胞移植の実績をまとって発表。



NMDPから提供



南京から2医師、技術

研究会」に

第18回

1995年(H7) 12月
東京
会長: 浅野 茂隆
演題数: 243

6) 12月

ム俊

●公的骨髄バンクドナーからの初めての骨髄移植が行われた記念すべき年。●長尾先生は研究会会長として、造血幹細胞移植例の全国集計を実施し、会長講演として発表。

日本の骨髄移植のパイオニアとして活躍された服部絢一先生を記念するシンポジウム(服部記念シンポジウム)を会長シンポジウムのような位置づけで開催。

12月

第15回

1992年(H4) 12月
福岡
会長: 仁保 喜之
演題数: 156

第14回

1991年(H3) 12月
札幌
会長: 宮崎 保
演題数: 120

新
付。
切
め
と
役
た。
昭、
浅
野
2回
シ
ト
ン
た
た
骨
髄
送
付



NMDPから提供を受けた骨髄移植患者さんとともに。前列の右端が小寺会長



南京から2医師、技術研修(1992. 11. 27) 公的バンク初の骨髄移植(1993. 1. 29)

発展期

第19回~



第19回

1996年(H8) 12月19・20日
ホテルグランヴィア岡山
原田 実根 (岡山大学医学部第二内科)

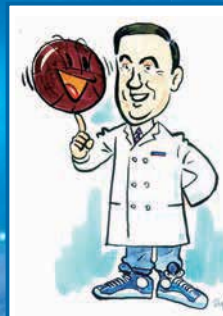
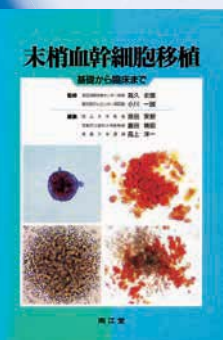
- 特別講演 「免疫制御の分子戦略」 奥村 康
- 会長報告 「造血幹細胞移植1996年全国調査」 原田 実根
- 服部記念シンポジウム 服部 絢一 / Robert Peter Gale / Alois Gratwohl
- シンポジウム
 - I 「MRD, GVLそしてDLT」
 - II 「多様化する造血幹細胞移植における看護の役割」
 - III 「わが国における非血縁者間骨髄移植の現状評価と今後の方策」

演題数 330

日本骨髄移植研究会が、日本造血細胞移植学会へと"grade up"した最初の記念すべき学術集会。演題数が初めて300題を超え、参加者数も1,500人を超えた。

本邦で行われた約10,000例の造血細胞移植症例の臨床成績が発表された。

第19回総会会長の原田実根先生、高上洋一先生、第34回総会会長の園田精昭の3名が編集に携わり、日本で初めての「末梢血幹細胞移植」に関する専門書として刊行された書籍



池田先生が学生時代にバスケット部だったことから、このようなイラストになった

1994年
ドナー登録者数
5万人
突破

1994年
自己末梢血幹細胞移植の
保険診療承認

1994年
東海大学で日本最初の血縁者間臍帯血移植実施

1995年
『末梢血幹細胞移植—基礎から臨床まで』を出版(南江堂)

1995年
日本で最初の「神奈川県」設立

1997年
骨髄移植
1,000例
到達

1997年
横浜市大病院で臍帯血バンクを介した最初の非血縁者間臍帯血移植実施

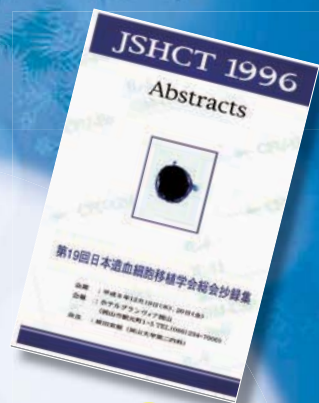
1998年
ドナー登録者数
10万人
突破

2000年
同種末梢血幹細胞移植の
保険診療承認

2003年
骨髄移植
5,000例
到達

2004年
ドナー登録者数
20万人
突破

「日本造血細胞移植学会」に改称。演題数と参加者数は右肩上がりに



テーマの「共に力を合わせて」は、造血細胞移植に関わるすべての人々が集い、学ぶ場になっていることを意味する。



第21回

1998年(H10) 12月18・19日
名古屋国際会議場
森島 泰雄 (愛知県がんセンター 血液化学療法部)
テーマ: 共に力を合わせて

- 特別講演
 - A 十字 猛夫
 - B Clare A. Dykewicz
 - C 谷本 光音
 - D Bertrand Coiffier
 - E John R. Wingard
 - F James J. Vrendenburgh
 - G Keith M. Sullivan
 - H JH Frederik Falkenburg
 - I 原 宏
 - J 池原 進
- 教育講演
 - ① 権藤 久司
 - ② 葛島 清隆
 - ③ 東 英一
 - ④ 宮村 耕一
 - ⑤ 平林 紀男
 - ⑥ 高本 滋
 - ⑦ 矢野 邦夫
 - ⑧ 塩原 信太郎
 - ⑨ 秋山 祐一
- シンポジウム
 - I 「GVHDの臨床」
 - II 「自家造血幹細胞移植の動向と臨床研究の成績」
 - III 「日本における造血幹細胞移植の現状と将来展望」
- ガイドラインコンセンサスマーケティング
「白血病における同種骨髄移植の適応」

演題数 438

造血幹細胞移植療法の多様化に基づいて、細胞療法、臍帯血移植などに関する多数の特別講演、教育講演を設けた点が特徴。

特別講演として岸本忠三先生(大阪大学)、招待講演としてIrving L. Weissman先生(スタンフォード大学)が講演されたことが特筆される



第22回

1999年(H11) 12月16・17日
広島国際会議場
土肥 博雄 (広島赤十字・原爆病院)
テーマ: 命の架け橋

- 特別講演
 - ① Sergio A. Giralt
 - ② J. Kurtzberg
 - ③ J. Downing
 - ④ Daniel E. Furst
 - ⑤ 金島 秀人
- 教育講演
 - ① 岡本 真一郎
 - ② 小寺 良尚
 - ③ 平林 紀男
 - ④ 佐治 博夫
 - ⑤ 佐竹 幸子
 - ⑥ 谷 憲三郎
 - ⑦ 楠 洋一郎
- ガイドライン委員会よりの報告 「GVHDガイドライン」
- 緊急報告 「東海村核燃料施設事故後の造血細胞移植」
- シンポジウム
 - I 「骨髄移植関連TMA」
 - II 「同種末梢血幹細胞移植、その基礎と臨床」
 - III 「小児の移植における告知と精神的ケア」
- 公開シンポジウム 「造血細胞バンクの将来」

演題数 395

1990年度のノーベル生理学・医学賞を受賞したトーマス博士の記念講演が企画されたが、健康上の理由から来日が出来なかったことが残念。

本学会のポスター、プログラム、テレホンカードなどのデザインは、慶應義塾大学病院で骨髄移植を受けた患者さんたちが作成。

「命の架け橋」は、造血細胞移植が此方の生命からもう一方の生命への架け橋であることを意味している。

演題数 351



第20回

1997年(H9) 12月18・19日
東京国際フォーラム
池田 康夫 (慶應義塾大学医学部)
テーマ: 21世紀の細胞治療への力の結集
— 新しい医療体制を目指して

- 特別講演 「造血システムの発生と分化」 仲野 徹
- 会長報告 「造血幹細胞移植1997年全国調査」
- 招待講演
 - I Paul J. Martin
 - II Lothar Kanz
 - III Frank J. Hsu
 - IV Juanita Madison
- シンポジウム
 - I 「我が国の医療体制と造血幹細胞移植医療」
 - II 「移植不成功例・移植後再発例のケア」
 - III 「細胞治療の最前線」



懇親会後の2次会。池田会長、岡本真一郎先生のお顔が見えます

1998年
臍帯血移植の
保険診療承認

1999年
日本さい帯血バンクネットワーク発足
公的臍帯血バンク事業開始

2001年
非血縁者間臍帯血移植
500例突破

2003年
非血縁者間臍帯血移植
1,000例突破

2001年
北海道厚
今村 雅典
基本コン

- 特別講演
 - ① 高久 史
- 会長講演 「日本にお
- 招待講演
 - ① Cather
 - ② Beverl
 - ③ Gerar
 - ④ Joyce
- 教育講演
 - ① 藤堂 省
 - ② 佐治 博
 - ③ 平井 久
- 特別シ
ンポジ
ム
I 「移植患
II 「同種
III 「ALLに
- ガイドラ
「造血幹
とくに性



2000年
国立京都
中畑 龍俊 (京都大学大学院)
テーマ: 新しい世紀の扉を

- 特別講演 岸本 忠三
- 招待講演
 - ① Viki Anders
 - ② William I. Bensinger
 - ③ Irving L. Weissman
 - ④ Martin F. Pera
- 教育講演
 - ① 浅野 茂隆
 - ② 中尾 眞二
 - ③ 珠玖 洋
 - ④ 内山 卓
- ガイドライン委員会よりの
「造血幹細胞移植後早期の
「同種末梢血幹細胞移植の
末梢血幹細胞の動員・採取
- シンポジウム
 - I 「造血幹細胞研究のフロン
 - II 「造血細胞移植後のウイル
 - III 「細胞治療の新展開」
 - IV 「臍帯血移植の基礎と臨床
- 公開シンポジウム
「あなたはどんな選択をし



第23回

2000年(H12) 12月8・9日
国立京都国際会館

中畑 龍俊 (京都大学大学院医学研究科 発達小児学)
テーマ:新しい世紀の扉を共にあけよう

演題数
418

- 特別講演 岸本 忠三
- 招待講演
 - ① Viki Anders
 - ② Donna Przepiorka
 - ③ William I. Bensinger
 - ④ Marina Cavazzana-Calvo
 - ⑤ Irving L. Weissman
 - ⑥ Richard Childs
 - ⑦ Martin F. Pera

- 教育講演
 - ① 浅野 茂隆
 - ② 中尾 眞二
 - ③ 福田 恵一
 - ④ 珠玖 洋
 - ⑤ 内山 卓
 - ⑥ 松島 綱治

- ガイドライン委員会よりの報告
 - 「造血幹細胞移植後早期の感染管理に関するガイドライン」
 - 「同種末梢血幹細胞移植のための健康人ドナーからの末梢血幹細胞の動員・採取に関するガイドライン」

- シンポジウム
 - I 「造血幹細胞研究のフロンティア」
 - II 「造血細胞移植後のウイルス感染症」
 - III 「細胞治療の新展開」
 - IV 「臍帯血移植の基礎と臨床」

- 公開シンポジウム
 - 「あなたはどんな選択をしますか? : 造血細胞移植それぞれの利点と限界」



2000年は、フランスで造血幹細胞を用いた遺伝子治療の世界初の成功例が報告され、わが国で同種末梢血幹細胞移植の保険適応が認められた年である。

Stanford大学のWeissman教授など、外国招待者の方々



第25回

2002年(H14) 10月24・25日
大阪国際会議場

河 敬世 (大阪府立母子保健総合医療センター・小児内科)
テーマ:バリアを超えて

演題数
410

- 特別講演
 - ① Erwin W. Gelfand
 - ② 正岡 徹
- 招待講演
 - ① 池原 進
 - ② 福原 資郎
- シンポジウム
 - ① 「ミニ移植の適応と問題点」
 - ② 「SCTの新たな適応—自己免疫疾患」
 - ③ 「急性白血病における“化学療法 VS SCT”」
 - ④ 「移植患者・家族のQOL」

- 特別セミナー
 - ① 「SCTとウイルス感染」
 - ② 「免疫抑制剤の適正な使い方」
 - ③ 「血縁者間ミスマッチ移植」
 - ④ 「Skin Careと移植看護」
- 公開セミナー 「がんと免疫療法の最前線」
- 日韓交流公開シンポジウム 「命のボランティアでつなぐ日韓交流」

HLAのバリア、年齢のバリア、人種や国境のバリアを超えること。これらを克服することで、病苦と対峙しているすべての患者さんに最良の医療を提供するという本学会の使命を全うできる。

2002年は、サッカーの世界大会が日韓共同開催された年。これを記念して、日韓交流の骨髄バンク支援公開フォーラムを開催。



ハローウィンの季節にUSJで開催された評議員懇親会後の写真。河会長も顔にペインティングされています



第24回

2001年(H13) 12月20・21日
北海道厚生年金会館 / 札幌市教育文化会館

今村 雅寛 (北海道大学大学院医学研究科癌制御医学講座 血液内科)
基本コンセプト:英知の結集

演題数
447

- 特別講演
 - ① 高久 史磨
 - ② 中畑 龍俊
- 会長講演 「日本における造血細胞移植—2001年全国調査」
- 招待講演
 - ① Catherine M. Verfaillie
 - ② Cheryl Kosits
 - ③ Beverly torok-Storb
 - ④ 須田 年生
 - ⑤ Gerard Socié
 - ⑥ Neil L. Bernstein
 - ⑦ Joyce L. Neumann
- 教育講演
 - ① 藤堂 省
 - ② 浅野 茂隆
 - ③ 西村 孝司
 - ④ 佐渡 敏彦
 - ⑤ 佐治 博夫
 - ⑥ 高橋 恒夫
 - ⑦ 葛島 清隆
 - ⑧ 中尾 眞二
 - ⑨ 平井 久丸
 - ⑩ 小澤 敬也

- 特別シンポジウム 「Immunobiology of Cell Therapy」
- シンポジウム
 - I 「移植患者管理の簡略化について」
 - II 「同種造血幹細胞移植と免疫寛容」
 - III 「ALLに対する造血細胞移植の適応と成績—小児、成人を比較して」
- ガイドライン委員会よりの報告 「造血幹細胞移植の適応ガイドライン: とくに慢性骨髄性白血病におけるSTI571と移植の適応について」



評議員懇親会として学会前日に横浜湾でマリン・ルーシェをチャーターしてクルーズをしました

第26回

2003年(H15) 12月19・20日
パシフィコ横浜

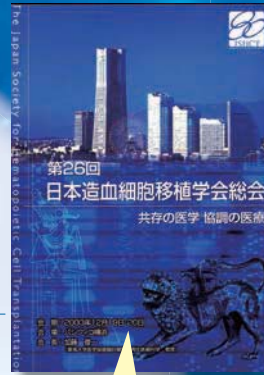
加藤 俊一 (東海大学医学部基盤診療学系再生医療科学)
テーマ:共存の医学 協調の医療

演題数
507

- Meet the expert
 - ① Catherine M. Verfaillie
 - ② 福田 昇
- 会長講演 「多様化する造血細胞移植—2003年全国登録より」
- シンポジウム
 - ① 「臍帯血移植」
 - ② 「造血細胞移植チーム医療」
 - ③ 「非血縁者間骨髄移植」
 - ④ 「再生医療」
- 特別企画 「ドナーの安全確保のために」
- 看護セミナー 「造血細胞移植における看護、その継続的関わりについて考える—欧米と日本の現状から」
- 特別プログラム 市民公開講座 「移植経験者に学ぶ ドナー経験者に学ぶ」
- 骨髄バンク感謝のついで 「移植経験者に学ぶ ドナー経験者に学ぶ」
- ビデオ参加 東 ちづる



世界的テノール歌手であるホセ・カレーラス氏と会長のtwo shot。カレーラス氏は、ご自身も急性骨髄性白血病で骨髄移植を受けて社会復帰されており、骨髄バンクの支援活動に熱心に取り組まれている。



学会のポスター(抄録集の表紙)の下端には、右にキメラ像、左にオシリス像が隠されている。キメラは、ギリシャ神話に登場する想像上の動物で、頭がライオン、胴体が山羊、尻尾が蛇という怪物。移植などで人為的に造り出される「キメラ」の語源。一方、オシリスは、エジプト神話に登場する再生の神。



法人設立総会

第28回

2006年(H18)
東京国際フォーラム
坂巻 壽 (東京都立駒宮)
テーマ:質の高い治療

- 会長講演 「我が国における造血細胞移植—2005年全国統計より」
- シンポジウム
 - ① 「造血細胞移植後の合併症(1)」
 - ② 「造血細胞移植後の合併症(2)」
 - ③ 「造血細胞移植の適応拡大」
 - ④ 「移植患者の栄養管理」
- 特別企画 「造血細胞移植登録一元化および新薬開発にあたっての学会集計事業の特別対応」
- 市民公開フォーラム 「より良い移植医療のために—患者・家族を囲む支援体制の向上」
- 特別講演 「宇宙からの贈りもの」 毛利 衛

市民公開講座の特別講演で、宇宙飛行士の毛利衛さんが「宇宙からの贈りもの」と題して講演されました



第27回

2004年(H16) 12月16・17日
ホテルグランヴィア岡山 / ママカリフォーラム
谷本 光音 (岡山大学大学院医歯学総合研究科病態制御科学専攻)
テーマ:新しい医療の確かな証を求めて

演題数
468

- 会長講演 「RISTのNationwide survey 2004」
- シンポジウム
 - ① 「RIST: 適応と限界」
 - ② 「GVHD: 基礎研究から臨床応用への時代」
 - ③ 「移植看護の専門性を高める看護師の教育」
 - ④ 「多様化する臍帯血移植」
- 特別企画
 - ① 「造血細胞移植と女性の不妊」
 - ② 「小児の移植看護」
- 市民公開シンポジウム
 - ① 医療講演 土肥 博雄・大谷 貴子
 - ② 特別講演 「夢を実現するために」 星野 仙一

造血細胞移植療法の今日的な課題である各種治療法選択や、その対象となる疾患および実施時期などを中心とした討議とコンセンサス作りを目指して、このテーマが選ばれた。



2004年度から、コメディカルの中でも看護部が正式に発足。

2004年
非血縁者間
臍帯血移植
2,000例
突破



ビデオ参加された東ちづるさんと加藤会長

市民公開シンポジウムで、阪神タイガースシニアディレクターの星野仙一さん(現、楽天ゴールデンイーグルス監督)の特別講演がありました



開講の特別講演で、宇宙飛行士の毛利衛が「宇宙からの贈り物」と題して講演されました

法人
設立総会

第28回

2006年(H18) 2月24・25日
東京国際フォーラム
坂巻 壽 (東京都立駒込病院 血液内科)
テーマ: 質の高い治療をめざして

- 会長講演 「我が国における造血細胞移植の動向—2005年全国統計より—」
- シンポジウム
 - ① 「造血細胞移植後の合併症(1)」
 - ② 「造血細胞移植後の合併症(2)」
 - ③ 「造血細胞移植の適応拡大」
 - ④ 「移植患者の栄養管理」
- 特別企画
「造血細胞移植登録一元化および新薬承認にあたっての学会集計事業の特別対応」
- 市民公開フォーラム
「より良い移植医療のために—患者・家族を囲む支援体制の向上—」
- 特別講演 「宇宙からの贈りもの」 毛利 衛



演題数
531

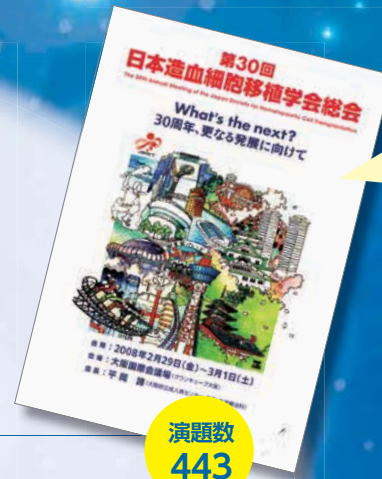
強力な治療である造血細胞移植には治療の期待が高いものの、厳しい合併症が立ちだかっているのが現状である。本総会の成果が移植後の合併症を減らし、あるいは、それを乗り越えて移植患者さんの治療成績とQOLの向上に繋がるように、このテーマが選ばれた。

次世代骨髄移植、インフラ整備が取り上げられた。

第30回

2008年(H20) 2月29日・3月1日
大阪国際会議場
平岡 諦 (大阪府立成人病センター 血液・化学療法科)
テーマ: What's the next?
30周年、更なる発展に向けて

- 特別講演 Mary M. Horowitz
- シンポジウム
 - ① 「TBIの現状と工夫」
 - ② 「急性被曝障害のマネジメント」
 - ③ 「Mesenchymal Stem Cell and Hematopoietic Stem Cell Transplantation」
- 公開討論会 「インフラ整備:登録一元化と新認定制度」
- 合同シンポジウム
 - ① 「細胞移植・再生医療における品質管理のあり方」
 - ② 「HLAと同種造血幹細胞移植」
- 看護シンポジウム 「造血細胞移植医療現場のジレンマ」
- 看護教育セミナー
 - ① 「造血細胞移植医療の変遷」
 - ② 「造血細胞移植における感染管理」
- アジア造血細胞移植看護カンファレンス
「日本・韓国・台湾の造血幹細胞移植看護の現状」
- 市民公開フォーラム



演題数
443

本学会が産声をあげた第1回骨髄移植臨床懇話会の23演題の抄録が掲載されたことはユニークな試み。

移植医療は「evidence」だけでなく、患者や家族、あるいは医療従事者の「見込みや期待=prospect」で左右されていることから、このテーマが選ばれた。



コシエンサスミーティンクにて、小島会長、次期会長の中尾先生、中畑先生のお顔が見えます

第27回

2004年(H16) 12月16・17日
メルグランヴィア岡山/ママカリフォーラム
大 光音 (岡山大学大学院医歯学総合研究科病態制御科学専攻)
テーマ: 新しい医療の確かな証を求めて



演題数
468

- 会長講演 「RISTのNationwide survey 2004」
- シンポジウム
「RIST: 適応と限界」
「GVHD: 基礎研究から臨床応用への時代」
「移植看護の専門性を高める看護師の教育」
「多様化する臍帯血移植」
- 特別企画
「造血細胞移植と女性の不妊」
「小児の移植看護」
- 市民公開シンポジウム
「特別講演 土肥 博雄・大谷 貴子」
「特別講演 「夢を実現するために」 星野 仙一

造血細胞移植療法の今日的な課題である各種治療法選択や、その対象となる疾患および実施時期などを中心とした討議とコンセンサス作りを目指して、このテーマが選ばれた。



本総会は、①女性が多く登場していること、②移植医療とは普段関係が薄い方からも広く意見を求めることをモットーにプログラム編成がなされた。シンポジウム、セミナーの発表者の3分の1は非会員の女性。

第29回

2007年(H19) 2月16・17日
福岡国際会議場
岡村 純 (独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 臨床研究部)
テーマ: 尊い命、つなげる絆。



演題数
455

- 特別セミナー
 - ① 「慢性GVHDの病態と治療戦略」
 - ② 「抗ウイルス療法としての同種移植療法:ATL」
 - ③ 「幹細胞移植における説明と同意のありかた」
- 会長報告
「造血細胞移植の現状と動向—2006年全国統計から—」
- シンポジウム
 - ① 「GVLとGVHDは分けられるか？」
 - ② 「日本の造血幹細胞移植医療はこのままでよいのか？」
 - ③ 「20年目の移植後合併症を防ぐには？」
 - ④ 「自立へ向けてのソーシャルサポート」
- 市民公開講座 「幹細胞移植と心のつながり」
第1部 パネルディスカッション
第2部 「心は無限のミステリー」 夏樹 静子

特別セミナー3会場に1,540名の参加があり、なかでも「説明と同意」の会場は満員に。このほか、早朝7時半開始のモーニングセミナーには700名の参加があった。



よさこいソーラン祭り優勝常連の平岸天神チームによる華麗な演舞

第31回

2009年(H21) 2月5・6日
ロイトン札幌/札幌市教育文化会館
笠井 正晴 (特定医療法人 北楡会 札幌北)
テーマ: パイオニアスピリットと移植



「さっぽろ雪まつり」の期間中に開催され、参加者は雪まつりを楽しむことができた。

札幌市での開催であり、蝦夷開拓者魂と、さまざまな困難の横たわる移植医療に立ち向かう熱い魂を共有する場としての学会をイメージしてこのテーマが取り上げられた。

- 会長講演 「最新の移植成績」
- シンポジウム
 - ① 「同種移植時の免疫細胞療法の進歩」
 - ② 「Chronic GVHD-Recent Progress」
 - ③ 「臍帯血移植療法の進歩」
 - ④ 「自家造血幹細胞移植のUpdate」
- 合同シンポジウム 「非血縁PBSCTに向
- 特別セミナー
 - ① John E. Levine
 - ② Tom M. Child
- 看護シンポジウム
「患者を支える人(ケアギバー)への支援」
- 看護教育セミナー
 - ① 品川 克至
 - ② 藤澤 めぐみ
- 市民公開講座
「骨髄バンク移植1万例、さい帯血バンク5千例の歩み記念講演会」



特別セミナー3の総合討論の様子

2004年
非血縁者間
臍帯血移植
2,000例
突破

2008年
骨髄移植
10,000例
到達

2008年
ドナー登録者数
30万人
突破

2008年
非血縁者間
臍帯血移植
5,000例
突破

2009年
日本さい
バンクネ
ワーク
設立10



岡村純会長のご挨拶



市民公開シンポジウムで、阪神タイガースシニアディレクターの星野仙一さん(現、楽天ゴールデンイーグルス監督)の特別講演がありました

2004年度から、コメディカルの中でも看護部が正式に発足。

移植医療は「evidence」だけでなく、患者や家族、あるいは医療従事者の「見込みや期待=prospect」で左右されていることから、このテーマが選ばれた。



第32回

2010年(H22) 2月19・20日
 アクトシティ浜松/オークラアクトシティホテル浜松
 小島 勢二 (名古屋大学大学院医学系研究科小児科学)
 テーマ: 移植医療の選択: Evidence vs Prospect



演題数 476

- Keynote Lecture Neal S. Young
- Presidential Symposium [Stem Cell Transplantation for Bone Marrow Failure Syndrome]
- シンポジウム
 - ① 「医師/看護部門合同シンポジウム 造血幹細胞移植における感染対策」
 - ② 「KSMBT/JSHCT Joint Symposium」
 - ③ 「Cell Therapy for Intractable Infections and Malignant Diseases」
- プレナリーセッション
 - Pro/Con
 - (I) 「幹細胞ソースの選択」
 - (II) 「多発性骨髄腫における同種造血幹細胞移植の適応」
- 看護シンポジウム 「意思決定支援—揺るぐ人々への看護の役割」
- 看護教育セミナー 曾我 賢彦
- 市民公開講座 「より良い移植医療・より良い治癒」

新しい試みとして、日本造血幹細胞移植学会と韓国骨髄移植学会との合同シンポジウムを開催。「移植医療の国際協力」という観点から高く評価される。

「さっぽろ雪まつり」の期間中に開催され、参加者は雪まつりを楽しむことができました。



第31回

2009年(H21) 2月5・6日
 ロイトン札幌/札幌市教育文化会館/北海道厚生年金会館
 笠井 正晴 (特定医療法人 北楡会 札幌北楡病院)
 テーマ: パイオニアスピリットと移植医療の進歩



演題数 504

- 会長講演 「最新の移植成績」
- シンポジウム
 - ① 「同種移植時の免疫細胞療法の進歩」
 - ② 「Chronic GVHD-Recent Progress and Controversy」
 - ③ 「臍帯血移植療法の進歩」
 - ④ 「自家造血幹細胞移植のUpdate」
- 合同シンポジウム 「非血縁PBSCTに向けて」
- 特別セミナー
 - ① John E. Levine
 - ② Tom M. Chiller
- 看護シンポジウム 「患者を支える人(ケアギバー)への支援」
- 看護教育セミナー
 - ① 品川 克至
 - ② 藤澤 めぐみ
- 市民公開講座 「骨髄バンク移植1万例、さい帯血バンク移植5千例の歩み記念講演会」

移植医療の原点に返り、現状を把握し、将来の更なる発展に向けて考える場とするために、このテーマが選ばれた。



第33回

2011年(H23) 3月9・10日
 愛媛県民文化会館/愛媛看護研修センター
 原 雅道 (愛媛県立中央病院がん治療センター血液腫瘍内科)
 テーマ: 将来を見つめて移植の原点を考える



演題数 515

- Presidential Lecture 「急性白血病に対する造血幹細胞移植の成績」
- シンポジウム
 - ① 「急性白血病の移植前処置はいかにあるべきか」
 - ② 「GVHD制御とGVL」
 - ③ 「細胞移植・細胞治療に関する国・学会の指針と基盤整備」 (日本造血幹細胞移植学会/日本輸血細胞治療学会/日本再生医療学会合同シンポジウム)
 - ④ 「日韓合同シンポジウム」
 - ⑤ 「移植後感染症の克服に向けて」
- 看護シンポジウム 「育てられる移植看護師—看護師の成長体験から」
- 看護特別セミナー 大棟 耕介
- 看護教育セミナー ① 豊嶋 崇徳 ② 田中 秀子
- アジア造血幹細胞移植看護カンファレンス 森 一恵
- 市民公開講座 「Memorial & Survivorship—あの時、こんな想いがあった。そして、今を生きる」



懇親会にて。小寺学会会長、原雅道会長、原田先生



原雅道会長とスタッフの皆さまの記念写真



特別講演1 Tsvee Lapidot先生 特別講演2 Mariusz Z. Ratajczak先生

合同シンポジウムでは、近未来の新しい移植医療の可能性についても紹介。

教育講演復活

医学部学生・初期臨床研修医セッションを新設。

2012年(H24) 2月24・25日
 大阪国際会議場
 菌田 精昭 (関西医科大学大学院医学研究科 先端医療学専攻修復医療応用系幹細胞生物学)
 テーマ: 基礎研究から新しい移植医療の臨床応用へ "from the bench to the bed side"



演題数 586

- 特別講演1 Tsvee Lapidot
- 特別講演2 Mariusz Z. Ratajczak
- 会長シンポジウム [Cord blood stem cell transplantation (CBSCT): from the bench to the bed side]
- 合同シンポジウム 「造血幹細胞移植の未来」 (日本造血幹細胞移植学会/日本再生医療学会)
- 特別企画シンポジウム 「放射能被曝がもたらす病態と造血幹細胞移植の役割—過去、現状、今後」
- 看護シンポジウム 「急性GVHDの看護」
- プレナリーセッション
- 教育講演
 - ① 片山 義雄
 - ② 前田 嘉信
 - ③ 植村 靖史
 - ④ 森尾 友宏
 - ⑤ 中尾 真二
 - ⑥ 河本 宏
 - ⑦ 佐々木 豊
 - ⑧ 赤司 浩一
 - ⑨ 井上 雅美
 - ⑩ 辻 浩一郎
 - ⑪ 池亀 和博
- 看護教育セミナー 「造血幹細胞移植後の晩期障害」
- 医学部学生・初期臨床研修医セッション
- 市民公開講座 「造血幹細胞移植でがんはどこまで治せるか」

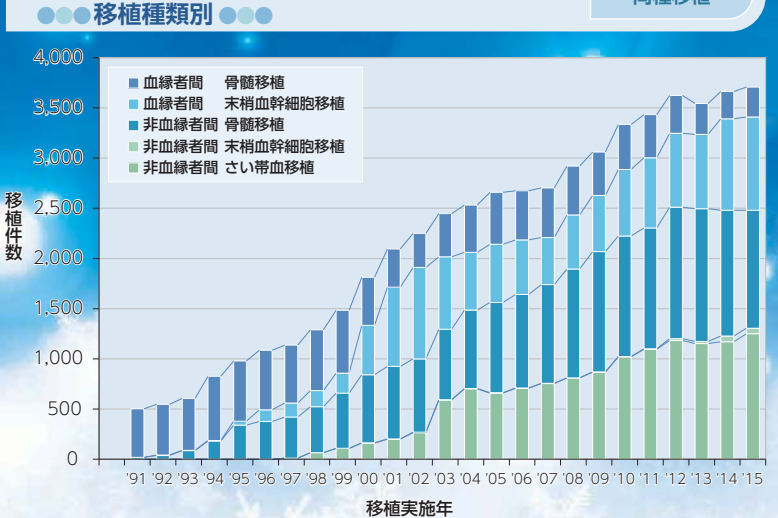
世界で初めて臍帯血移植を行った米国Hal E. Broxmeyer先生のkeynote lectureが行われた。

会長シンポジウム



Hal E. Broxmeyer先生

造血幹細胞移植件数の年次推移



「一般社団法人 日本造血幹細胞移植データセンター 2016年度 日本における造血幹細胞移植の実績」より

2008年 非血縁者間 臍帯血移植 5,000例 突破

2009年 日本さい帯血 バンクネット ワーク 設立10周年

2010年 同種末梢血幹細胞移植のための 健康人ドナーからの末梢血幹細胞動員・採取に関するガイドライン(日本造血幹細胞移植学会)

2010年 非血縁者間 臍帯血移植 6,000例 突破

2011年 ドナー登録者の累計数 50万人突破 累積移植患者数 13,397名

2013年 非血縁者間臍帯血移植 10,000例突破



第36回

2014年(H26) 3月7・8・9日
沖縄コンベンションセンター／ラグナガーデンホテル
／フェストーネ

岡本 真一郎 (慶應義塾大学医学部 血液内科)

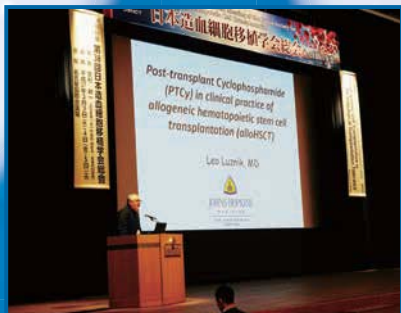
テーマ: 造血幹細胞移植の最適化
Optimizing Hematopoietic Stem Cell Transplantation

演題数 695

- 会長シンポジウム [Integrating molecular targeting into HSCT]
- 特別講演 Special lecture Paul J. Martin
- シンポジウム 「成人T細胞白血病/リンパ腫(ATLL)に対する造血幹細胞移植の最適化 Optimization of hematopoietic stem cell transplantation for ATLL」
- 教育講演
 - 1 J. Peter Donnelly
 - 2 Johannes Schetelig
 - 3 高橋 義行
 - 4 山崎 宏人
 - 5 鈴木 淳司
 - 6 佐谷 秀行
 - 7 益崎 裕章
 - 8 仲地 佐和子
 - 9 友寄 毅昭
 - 10 福田 隆浩
 - 11 内田 直之
- 看護シンポジウム 「がん患者の子供に親のがんを伝えること、支援すること Supporting children whose parents develop cancer」
- 看護教育講演
 - 11 森一恵
 - 12 山崎 多賀子
 - 13 安達 昌子
 - 14 木下 朋雄
 - 15 砂川 富正
- 市民公開講座 「造血幹細胞移植の最前線を知ろう」
- ASBMT-JSHCTセッション



造血幹細胞ソース・移植法等の多様化、社会の高齢化、移植以外の新規治療の導入が加速する我が国においては、移社会のリソースにも配慮し、根治と完璧な社会復帰を目指すことが移植医療に求められる課題である。そのために様々な視点から、個々の患者さんに最適な移植医療を提供する方向性を共有し議論を進める場として、このテーマが選定された。



第37回

2015年(H27) 3月5・6・7日
神戸国際会議場／神戸ポートピアホテル

小川 啓恭 (兵庫医科大学 内科学講座血液内科)

テーマ: もっと自由な発想で

演題数 518

- 会長シンポジウム [HLA 半合致移植-世界の最新情報 Update of HLA-haploidentical SCT in the world]
- 特別講演 Special lecture Megan Sykes
- シンポジウム
 - 1 「造血幹細胞移植の諸問題に対する革新的アプローチ Innovative approaches to problems of allogeneic stem cell transplantation」
 - 2 「同種移植の本質的理解に向けて Heading towards basic understandings of allogeneic transplantation」
- 教育講演
 - 1 峯石 真
 - 2 片山 義雄
 - 3 藤原 弘
 - 4 岡田 昌也
 - 5 園田 精昭
 - 6 神田 善伸
 - 7 Jacek Toporski
 - 8 Steven Devine
 - 9 Karin Mellgren
 - 10 東梅 友美
- 看護シンポジウム 「造血幹細胞移植患者の就労支援について Employment support of hematopoietic cell transplantation patients」
- 看護教育講演
 - 1 森一恵
 - 2 山崎 宏人
 - 3 石出 恵子
 - 4 大江 身奈
- 特別企画 「慢性GVHD Chronic GVHD」
- 市民公開講座 「～白血病今昔物語～」

とかくevidenceに捕われがちな移植医療において、ED Thomasたちが同種移植を開発した時のように、もっと大きな自由な発想で、移植医療を細胞療法という観点から捉え直し、本邦から、世界に向けて、新しい移植コンセプトを発信したいということで、このテーマが選ばれた。



第38回

2016年(H28) 3月3・4・5日
名古屋国際会議場

宮村 耕一 (名古屋第一赤十字病院 副院長・血液内科部長)

テーマ: Humanism, Science, Challenge & Team

演題数 518

- 会長シンポジウム 「移植後長期生存者の生涯フォローアップの基盤 Establishment of a lifetime management of survivors after transplantation」
- シンポジウム
 - 1 「ステロイド抵抗性GVHD Steroid refractory GVHD」
 - 2 「JSHCT & ASBMT Joint Symposium: How we set-up national clinical trial network in Japan」
 - 3 「Current situation and future direction of cell therapy 本邦における細胞療法の現状と今後の方向性について」
- 教育講演
 - 1 森島 泰雄
 - 2 田中 淳司
 - 3 中世古 知昭
 - 4 Mohamad Mohtai
 - 5 Jaroslaw P. Maciejewski
 - 6 楠本 茂
 - 7 田野崎 隆二
 - 8 峯石 真
 - 9 豊嶋 崇徳
 - 10 高見 昭良
- 看護シンポジウム 「長期療養を支えるための地域連携へのチャレンジ Challenge to regional alliance to support the long-term care of patients」
- 看護教育講演
 - 1 森一恵
 - 2 佐野 秀樹
 - 3 山花 令子
 - 4 石田 麗子
- 特別企画
 - 1 「造血幹細胞移植における妊孕性の検討 Preservation of fertility in hematopoietic stem cell transplant recipients」
 - 2 「WBMT/APBMTセッション WBMT/APBMT Session」
 - 3 「ITAM」
 - 4 「造血幹細胞移植におけるチーム医療 Team-approached care in stem cell transplantation」
 - 5 「明るいプロコンで考える、これからのオルタナ移植 Friendly Pros & Cons of the future alternative HSCT」

移植医療の努力された先人、そしてHumanism、Challenge、すなわちドナーの人間愛、たぐいそれに基づく新しいこれらに加え我々のなしたTeam医療、したく、このテーマが選ばれた。

第35回

2013年(H25) 3月7・8・9日
石川県立音楽堂／ANAクラウンプラザホテル金沢
／ホテル日航金沢／金沢市アートホール

中尾 真二 (金沢大学医薬保健研究域医学系細胞移植学)

テーマ: 第35回: 移植がもたらす「無限の喜び」
- 奇跡の検証とこれから -

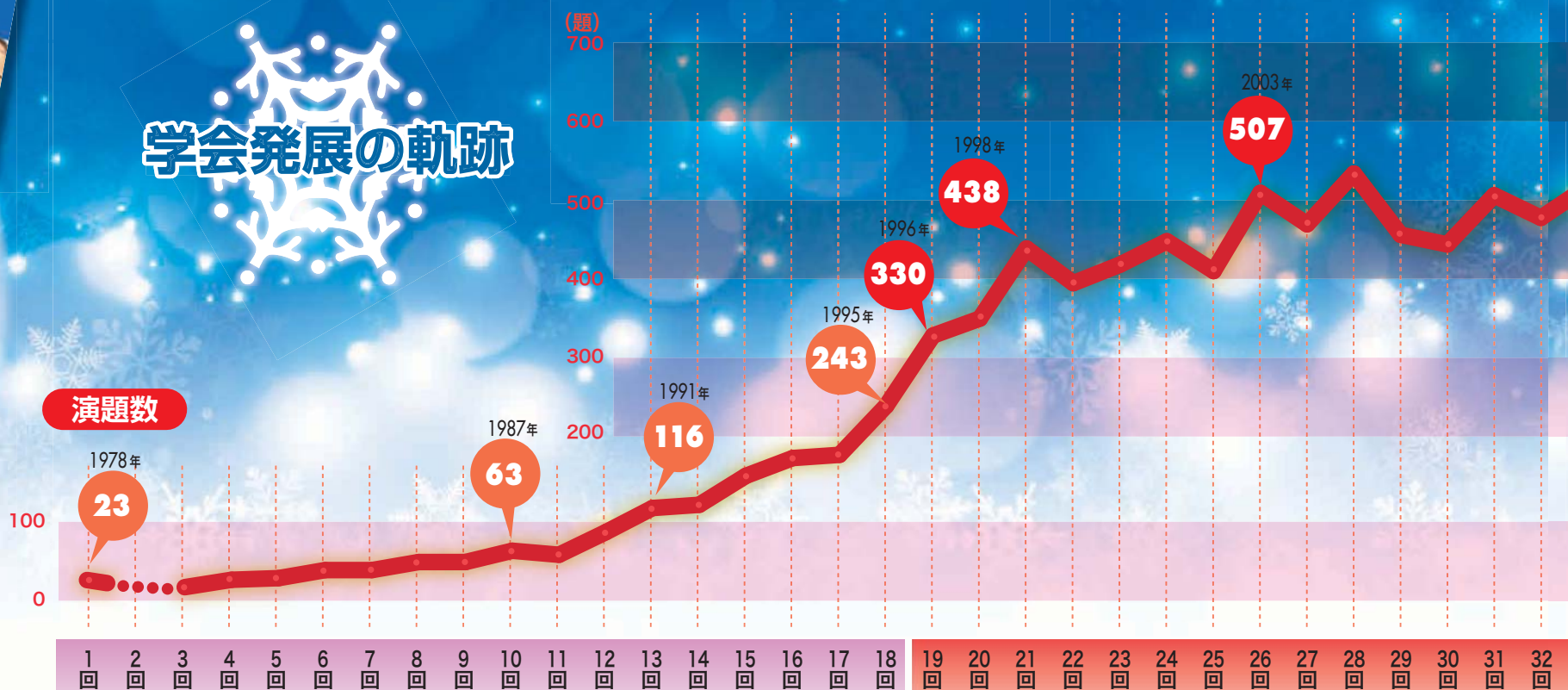
演題数 500

- 会長シンポジウム [SCT for bone marrow failure]
- 特別講演 Special lecture Andrea Bacigalupo
- シンポジウム
 - 1 「急性GVHDの基礎と臨床 Pathophysiology and treatment of acute graft-versus-host disease」
 - 2 「代替移植ソースの選択: HLA 適合血縁ドナーがいなくて何をを選ぶ? Which alternative stem cell source is most preferable for patients who do not have HLA-identical relative donors?」
- 移植スタッフ合同シンポジウム 「移植患者のQOL 改善に向けての取り組み What can we do to improve the quality of life of patients after stem cell transplantation?」
- 教育講演
 - 1 佐治 博夫
 - 2 小林 光
 - 3 吾郷 浩厚
 - 4 大石 晃嗣
 - 5 屋部 登志雄
 - 6 豊嶋 崇徳
 - 7 村田 誠
 - 8 南谷 泰仁
 - 9 田中 淳司
 - 10 鈴木 律朗
- 看護シンポジウム 「慢性GVHD Chronic graft-versus-host disease」
- 看護教育講演 森一恵
- 市民公開講座 「移植がもたらす「無限の喜び」～奇跡の検証とこれから～」

日本の「骨髄移植の父」服部絢一先生は、「不治の病を治した時の喜びは無限に近い」という名言を残されました。私自身、移植臨床を通していくつもの奇跡に出会い、無限の喜びを感じてきました。学術集会を、奇跡の機序を検証し、その成果をこれからの診療に役立てるための場としたという思いから、この言葉をテーマに選びました。



学会発展の軌跡





第38回

2016年(H28) 3月3・4・5日
名古屋国際会議場

宮村 耕一 (名古屋第一赤十字病院 副院長・血液内科部長)

テーマ: Humanism, Science, Challenge & Team

移植医療の発展に
努力された先人たちが語っ
ていたHumanism, Science,
Challenge、すなわち身をとした
ドナーの人間愛、たゆまない研究と
それに基づく新しい挑戦の連続、そ
れらに加え我々の時代に重要と
なったTeam医療を語る総会と
したく、このテーマが選ば
れた。

演題数
512

- 会長シンポジウム 「移植後長期生存者の生涯フォローアップの基盤整備
Establishment of a lifetime management of survivors after HSCT」
- シンポジウム
 - ① 「ステロイド抵抗性GVHD Steroid refractory GVHD」
 - ② 「JSHCT & ASBMT Joint Symposium: How we set-up nation-wide clinical trial network in Japan」
 - ③ 「Current situation and future direction of cell therapy 本邦における細胞療法の現状と今後の方向性について」
- 教育講演
 - ① 森島 泰雄 ② 田中 淳司 ③ 中世古 知昭 ④ Mohamad Mohty
 - ⑤ Jaroslaw P. Maciejewski ⑥ 楠本 茂 ⑦ 田野崎 隆二
 - ⑧ 峯石 真 ⑨ 豊嶋 崇徳 ⑩ 高見 昭良
- 看護シンポジウム 「長期療養を支えるための地域連携へのチャレンジ
Challenge to regional alliance to support the long-term care」
- 看護教育講演
 - ① 森 一恵 ② 佐野 秀樹 ③ 山花 令子, 石田 麗子
- 特別企画
 - ① 「造血細胞移植における妊孕性の検討 Preservation of fertility in hematopoietic stem cell transplant recipients」
 - ② 「WBMT/APBMTセッション WBMT/APBMT Session」
 - ③ 「ITAM」
 - ④ 「造血幹細胞移植におけるチーム医療 Team-approached care in stem cell transplantation」
 - ⑤ 「明るいプロコンで考える、これからのオルタナ移植 Friendly Pros & Cons of the future alternative HSCT」



第39回

2017年(H29) 3月2・3・4日
くびきメッセ/島根県民会館

吾郷 浩厚 (島根県立中央病院 血液腫瘍科)

テーマ: Passion for Hematopoietic Cell Transplantation

"Passion for HCT"
これが現在の移植現場
に失われつつあるように思わ
れてならない。このテーマは第
39回総会を通じて、移植創生期
のような熱い"Passion"を我々の手
に呼び戻し、それが若い世代に
引き継がれることを心より
願い策定した。

演題数
522

- 特別講演 Special lecture Robert Peter Gale
- シンポジウム
 - ① 「Current status and future perspective of chronic GVHD」
 - ② 「Cancer Immunotherapy and Genome Editing」
 - ③ 「地方移植病院の連携 移植医療の均てん化-地方移植病院の充実を図る-For the development of regional hematopoietic stem cell transplantation centers of Japan」
 - ④ 「Precision stem cell transplantation: finding optimal regimens based on donor and recipient factors」
- 教育講演
 - ① 楠本 茂 ② John Koreth ③ 伊豆津 宏二 ④ 塚田 信弘
 - ⑤ 杉田 純一 ⑥ 高橋 義行 ⑦ 豊嶋 崇徳 ⑧ 山本 久史
 - ⑨ 丸山 大 ⑩ 加藤 剛二
- 看護シンポジウム 「移植患者のセルフケア支援(移植前・中・後・外来、慢性GVHDなど) Selfcare support of transplant recipients」
- 看護教育講演 石田也寸志



第40回

2018年(H30) 2月1・2・3日
回イトシ札幌/ホテルさっぽろ芸文館

札幌市教育文化会館

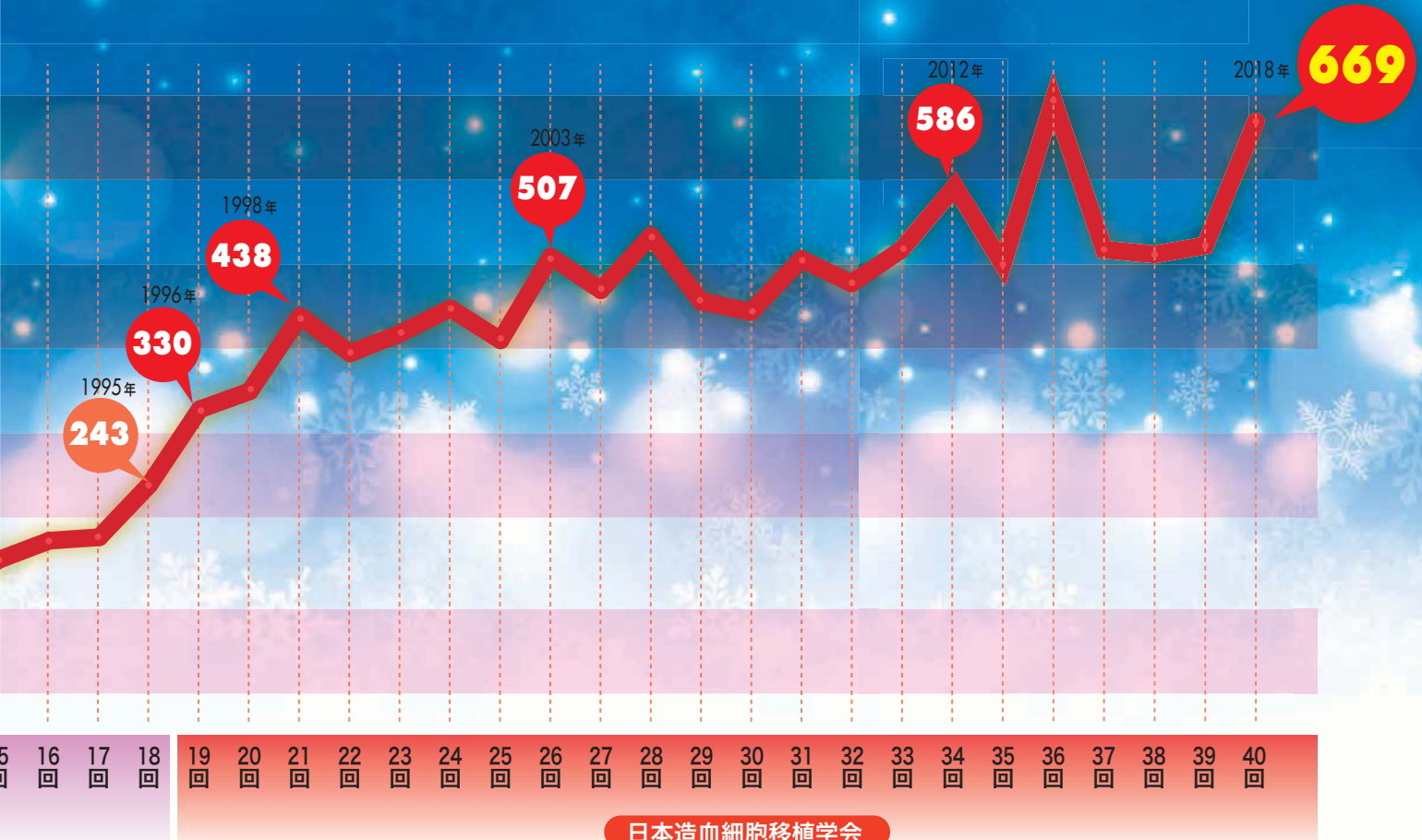
豊嶋 崇徳 (北海道大学大学院医学研究院 血液内科)

テーマ: 未来の造血細胞移植

The Future of Hematopoietic Stem Cell Transplantation

演題数
669

- 会長シンポジウム 「The Future of SCT」
Takanori Teshima, Luca Vago, Richard J. Jones
- シンポジウム
 - ① JSHCT-KSBMT Joint Symposium
「Haplo & Cord」
Satoshi Takahashi, Hee-Je Kim, Ho Joon Im, Hirohisa Nakamae
 - ② 教育シンポジウム
「How I treat myeloma and related disorders using transplant」
Philippe Moreau, Sergio A. Giralt, Shaji Kumar
 - ③ シンポジウム1
「Immunotherapy in SCT」
Koji Kato, Robert J. Soiffer, Kaiyan Liu, Elizabeth J. Shpall
 - ④ シンポジウム2
「Novel Insights in Transplant Biology」
Ken-ichi Matsuoka, Shinji Nakao, Marcel R.M. van den Brink, Yasuhito Nannya
 - ⑤ シンポジウム3
「Innovative Concepts to Maximize Patient Outcomes」
Robert W. Chen, Meletios A. Dimopoulos, Junichi Sugita, Koji Nagafuji
- 教育講演
 - ① 黒澤 彩子 ② 近藤 忠一 ③ 水田 秀一 ④ 菊田 敦
 - ⑤ 高橋 聡 ⑥ 寺倉 精太郎 ⑦ 小沼 貴晶 ⑧ 前田 嘉信
 - ⑨ 金兼 弘和 ⑩ 山本 久史
- 看護シンポジウム
- 看護教育講演
 - ① 大島 久美 ② 上別府 圭子
- 造血幹細胞移植推進事業フォーラム
「The forum of allied organizations promoting hematopoietic stem cell transplantation (HSCT)」
- HCTC ワークショップ
- 市民公開講座 「血液がんの治療をのりこえる」



2017年
非血縁者間臍帯血移植
15,000例突破